

IV. ハノイ大学への教員派遣事業

1. 派遣教員、奈良女子大学研修生

派遣教員	鈴木 広光	奈良女子大学研究院人文科学系言語文化学領域 教授
研修生	鈴木 小春	奈良女子大学人間文化研究科博士前期課程 2回生
研修生	Dong Thi Thanh Nhan	奈良女子大学人間文化研究科博士前期課程 2回生

2. 派遣期間

12月8日（月）関空発ーハノイ着

12月9日（火）～12月11日（木）講義及び成績評価

12月11日（金）ハノイ発ー関空着

3. 事業概要

言語学概論および日本語学特論 12月9日（火）～11日（木）計5コマ（15時間）

修士課程大学院生 5名に対して講義を行なった。

講義概要 テーマ 「日本語のオノマトペの世界」と「日本語の造語法」

鈴木は2012、2013年にハノイ大学大学院日本語コース（修士課程）で集中講義を行っている。12年は、日本における日本語教育研究の比較的新しい成果で「日本語らしい表現」に文法的説明の根拠を与えることを目的とするテーマで、13年は、会話において微妙なニュアンスを伝えるのに頻用されるにもかかわらず、規則化や母語話者以外はただちにニュアンスを感得しづらいために言語教育のメソッドにはのりにくいオノマトペ、また略語や造語をテーマに授業を行った。本コース（修士課程）は日本語教師養成を目的としており、すでに大学院生が日本語教師として働いていることを念頭に、14年度は再び、「日本語らしい表現」を扱うことにした。教材は12年度同様、近藤安月子・姫野伴子『日本語文法の論点43』（研究社、2012）を参考にして、鈴木が独自に作成したものをプリントとして配布した（**参考資料**参照）が、先に行った授業の反省を活かして、できるだけ文法の原理そのものよりも、日本語教育の場で根拠を示して説明することができるように配慮したものを作成した。

4. 事業評価

4-1 講義について

今年の受講大学院生は五名であった。過去二年と異なるのは、日本語学科長のトアン教授も臨席したことである。

教授が参加することには、プラス面とマイナス面があった。まずプラス面については、普段教えられている日本語メソッドとのギャップを埋めることができるという点である。トアン教授によって以前教えられたトピックとの関連を大学院生に示唆することで、二年前に感じられた院生のとまどいのようなものは解消することができた。また、ベトナム語と日本語との対照言語学的観点から説明しようとするとき、豊富な例文や解説をトアン教授から提示され、わかりやすくなった。プラス面の方が圧倒的に勝っているが、マイナス面もないわけではなかった。こちらから院生に質問を投げかけたり、意見を求めたりする際に、教授の存在がやや気になるようで、誤っていても構わないにも関わらず、やや控えめになっているようであった。また、院生の答えや意見を待ちきれず、トアン教授が答えや質問を言うてしまう場面も見受けられた。

4-2 大学間の連携について

今年の派遣では、日本語学科長のトアン教授と毎日会うことができた。また国際課の長などにも挨拶できたことは収穫であった。トアン教授とは、ダブル・ディグリーの状況など本学との提携関係について、情報交換を行うことができた。昨年度は同行した本学博士前期課程生による一時間ほどの奈良女子大学および奈良の紹介や学生生活、留学の案内のプレゼンテーションの時間が設けられた。今年もそれができると良かったのだが、時間的余裕がなく、行えなかったのが残念である。また本年度の院生は多忙なため、昨年行われた大学院生どうしで行った交流会も行うことができなかった。あらかじめ、このような行事をスケジュールに組み込んでおくと良いと思う。

本年度はハノイ外大に同行予定だった留学生のニャンさんに急遽、ハノイ大学への同行に変更してもらった。ベトナムでの行動やハノイ大学院生とのコミュニケーションの場面で、大変力になってもらい、助かった。

4-3 同行した研修生による評価

大学院 人間文化研究科 博士前期課程 言語文化学専攻 2回生 鈴木小春

12月8日～12日までハノイ大学日本語学科に派遣され、鈴木広光先生の集中講義の補助を行ってきました。今回の受講生はみなさん院生だったため、午前中はそれぞれベトナムの方に日本語を教える仕事などをされており、授業は午後より行われました。講義のテーマは「日本語らしさの文法」というもので、普段日本語をベトナム人に教えている学生の皆さんには非常に興味深いものであったと思います。

具体的な講義内容は、はじめに「私」「あなた」という人称の言語化の有無について、次に「食べていく」「買ってくる」といった補助動詞「てくる」「ていく」について、そして最後に「あげる」「くれる」「もらう」について、それぞれ文法上誤りのない表現であっても、「日本語らしさ」の観点から見てどちらの方がより自然かを考えるというものでした。

日本で英語を学習する際、はじめに文法から学ぶことがほとんどだと思います。ベトナムでも日本語を学習する時には、文法の学習から行うとのことでした。今回は、その時に教わる「正しい」日本語の例文が、文法上誤りではないけれども、母語話者である日本人にとっては不自然だと感じられる例があることなどを講義されたので、はじめ戸惑いを見せる方もおられました。ただ、難しい内容ではあったものの、先生の発問に対しみなさん懸命に考えて自分の言葉で説明して意見交換をされていたのが印象的でした。これからもベトナムの方に日本語を教える受講生の皆さんにとって、今回の講義は日本語の本質を考えたり、「生きた」日本語を知ったりする上で非常に有益だったと思います。私の方もまた、外国の方が「日本語らしさ」を学ぶ上で、どのようなところに引っ掛かるのかを目の前で見ることができて、非常に勉強になりました。そして日本に興味をもってくださっている学生の皆さんの意識の高さに触れられたことは、今後も研究を続ける私にとってたいへん意味あるものでした。

今回の出張では、授業の入っていない時間には旧市街を散策したり、博物館や遺跡などを見学させていただいたりして、生のベトナムの文化・人に触れることができました。今まさに発展している国らしく、とても活気があったのが印象に残っています。留学生を迎えるばかりでなく、是非本校からもこのエネルギーに満ちたベトナムに留学する方が増えてほしいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さったみなさまに、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



人間文化研究科 博士前期課程 国際文化社会学専攻 Dong Thi Thanh Nhan

私は2014年12月8日から12月14日にかけての一週間、鈴木先生の集中講義の補助とベトナム現地調査を目的に、ベトナムに同行させて頂きました。

まずは鈴木先生と大学院生の鈴木さんとベトナム・ハノイ大学に行きました。ハノイ大学では、12月9日から11日までの3日間、鈴木先生の集中講義が行われました。講義日程

は一日 2 コマ、午後 14 時から 17 時までの 2 時間でだった。講義参加者ハノイ大学の大学院生たちで、皆は働いてから大学院を通っているようで、忙しそうだが、皆日本語が上手で、日本語研究に関するやる気が溢れていると感じました。

講義の内容は「日本語らしさの文法」について、4 課に分けられました。第 1 課は「私」のテーマで、「私は」を省略する・話手のゼロ化について説明されました。第 2 課は「あなた」の使い方や聞き手のゼロ化の話でした。つづけて第 3 課はよく使われている「くる」と「いく」の動詞の使い方について説明されました。最後に第 4 課は「あげる」、「くれる」、「もらう」のテーマでした。それぞれのテーマで詳しい説明と分かりやすい例があげられ、皆さんに質問して答えてもらうの形でした。皆さんからいろいろご意見があり、盛り上がった雰囲気です。

今回は時間を設けて奈良女子大学の紹介は詳しくできなく、少し残念だと思いますが、休憩時間にハノイ大学の皆さんと喋ったりして、奈良女子大学に留学したいと興味を持っている方が多くおられます。特に、大学院教育に関する奈良女子大学とハノイ大学との協定の話も出ました。皆は楽しみにしていますと仰いました。

最後の授業が終わって、鈴木先生は皆と記念写真を撮りました。皆からのご感想などを聞かせて、来年もこういう集中講義に参加したいという気持ちが伝わっていました。

そして、講義集中に参加させて頂いて、また、自分の現地調査できる時間も頂き、国際交流センターを初め、先生方、皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

以下は講義集中を写っている写真です。



「日本語らしさ」の文法

第1課 「私」

1. 「私は」の省略か？

- (1) はじめまして。私は鈴木です。どうぞよろしく。
- (2) はじめまして。鈴木です。どうぞよろしく。

課題1 (1)(2)を比較。「私は」の有無による違いは？→違いがあれば、単なる省略ではない。

2. 「は」の機能

- (3) むかしあるところにおじいさんとおばあさん () いました。おじいさん () 山へ柴刈りに、おばあさん () 川へ洗濯に行きました。
- (4) Q: ここに置いてあったケーキを食ったのは誰だ？
「～は」=既知情報。 疑問詞「誰」=未知。
A: (食ったのは) オレだ。= *オレは食った。旧情報 / オレが食った。新情報
- (5) 太郎は中学生だが、次郎はまだ小学生だ。 モノの対比
- (6) 彼はその本を見はしたが、読みはしなかった。 コトの対比

課題2 「私は鈴木です」が不自然に感じられないのは、どのような場面・文脈か？

3. 話し手は自分自身を言語化=対象化するか？

- (7) あ、誰もいない。 (8) あ、アタシ以外 (のほか) に誰もいない。

気がつく自分だけが取り残されている状況でのひとりごと。事実の描写としては(7)よりも(8)の方が正確であるにもかかわらず、日本語母語話者にとって(8)のほうが不自然。

(9) ここはどこですか？ (10) 私はどこにいますか？ Where am I?

(10)は日本語母語話者にとって不自然。(9)は、話し手＝〈私〉が事態の中において自身の目の前の空間を「見えること」として認識する主観的把握による発話。

4. 形容詞の人称制限をめぐって

(11) ?私は若い。 / ?あなたは若い。 / 彼は若い (あの人は若いね)。

(12) a. ?私は眠い。 / *あなたは眠い。 / *彼は眠い。

b. *私は眠い? / ?あなたは眠い? / *彼は眠い?

(13) 彼は眠いようだ。 / 眠いらしい。 / 眠そうだ。

属性 (様態・形状を含む) 形容詞 → 人称制限なし。

感情・感覚形容詞 → 人称制限あり。

5. 話し手のゼロ化

(14) ああ、眠い (眠っ)。 痛い (イタッ!)。 熱い (アツッ!)。 辛い (カラッ!)

(15) 眠い (の)? 痛い (の)? 上昇調イントネーションによる疑問文では二人称代名詞は不要。 → (11)の「?あなたは若い」を含め、聞き手 (あなた) に対しての問題は第2課で取り扱う。

(16) 頭が痛い (背中がかゆい)。 ?私は頭が痛い。 *私の頭が痛い。

(17) 水が飲みたい。 ?私は水が飲みたい。

課題3 「眠い」と「私は若い」を「若い」と話し手ゼロで表現できないのはなぜか? 第1課で考察してきたこと総合して、その理由を考えてみよう。

第2課 「あなた」

1. 「あなた」は使いにくい

- (1) ?あなたは法律がご専門ですね。 (2) 鈴木さん／先生は法律がご専門ですね。

「現在では、年齢や立場が同等、あるいは下位にある人に対して使うことが一般的になっており、上位者に対して用いにくくなっている。」

「相手の名前を示さずに呼ぶことで、中立的な表現となる反面、やや冷たい響きが感じられる。」(文化庁審議会答申・敬語の指針：2007)

→「あなた」「きみ」といった二人称代名詞を使うことはほとんどない。「あなた」は夫婦・恋人間でおもに女性から男性に対して使われることがある。「きみ」はふつうの会話のなかにはほとんど登場しない。小説の会話文やドラマのせりふで使用されることがある程度。

名前や役職などを知らない相手には、「あなた」ではなく、下記の方法が推奨される。

- (3) 雨の中、よくいらっしゃいました。 → 聞き手の行動に対して敬語を使用する。
反例 雨の中、よく来たね(来てくれたね)。 → 敬語使用は必須ではない。
(4) 教えてくれてありがとう。 → 話し手の視点(=聞き手との関係)を明示する。

2. 聞き手のゼロ化

課題1 (5)~(7)について、「あなたは」の有無により文の意味は異なるか? 異なるとしたら、どう違っているか?

- (5) 立ってください。 / あなたは立ってください。
(6) 毎日、日本語を勉強しますか? / あなたは毎日、日本語を勉強しますか?
(7) お元気ですか? / あなたはお元気ですか?

- (8) φ／あなた／鈴木さん、ちゃんと掃除しなさい。(命令)
(9) φ／あなた／鈴木さん、こっちへ来てよ。(依頼)
(10) φ／あなた／鈴木さん、そろそろ出かけましょう。(勧誘)
(11) φ／あなた／鈴木さん、来週パーティに出る?(問いかけ)

(8)~(11)は聞き手の行動への敬語や視点の明示はなくても、聞き手は自分に対する〈命令・

依頼・勧誘・問いかけ)であることを理解できる。話し手と聞き手は会話の当事者として、常に潜在的な主題で、実際の会話の話題にのぼっていないまでも、会話の主題であったかのような性格を持つ。逆に聞き手を選択して、他者と対比したりする必要がある場合は言語化(あなた/鈴木さん)される。→効果的。

3. 名前と身分呼称

母親

- (12) 母親：[自分の子に]そんなに泣いたらお母さんも困るの。 → 一人称
- (13) 子：[自分の母親に]お母さんのカレー、大好き。 → 二人称
- (14) 他人：[幼い子に]あぶないよ。ちゃんとお母さんと手をつなぎなさい。 → 三人称

先生

- (15) 先生：[生徒に]先生は今いそがしいんだよ。
- (16) 学生：[教師に]先生は明日大学へいらっしゃいますか？
- (17) 学生：[クラスメートに]先生はちゃんと指導してくれる？

名前

- (18) 本人：その仕事ならこの鈴木に任せてください。
- (19) [山田さんに]山田さんも明日一緒に行ってくれるよね。
- (20) [鈴木さんに]山田さんも明日一緒に行ってくれるよね。

4. 「あなた」の不特定性

あなたが積極的に用いられる場合

- (21) あなたのご職業は何ですか。 (アンケート用紙にある質問文)
- (22) あなたが選ぶカー・オブ・ザ・イヤー (自動車賞の名称)
- (23) あなたがいてくれたから (歌の題名)

課題2 「あなた」が特定の話し手が特定の聞き手に向けて発話したものではなく、不特定に受け手に向けて積極的に用いられるにはなぜか？

ヒント なぜふつうの会話では「あなた」が用いられにくいのかを考えよう。

第3課 「くる」と「いく」

1. 補助動詞「てくる」「ていく」

- (1) Q: 朝ごはんは? A: 食べてきました。 / 食べていきました。
A: 食べてきます。 / 食べていきます。
- (2) お土産を買ってきましたよ。 / お土産を買っていききましたよ。
- (3) ちょっと飲み物を買ってきます。 / ?ちょっと飲み物を買っていきます。
- (4) ボールが転がってきた。 / ボールが転がっていった。

課題1 (1)~(3)の「てくる」と「ていく」とを用いた文を比較し、その違いや特徴を考えてみよう。

2. 移動表現の自然さ

- (5) a. ?朝ごはんを食べました。 / 朝ごはんを食べてきました。
b. 今朝は、朝ごはんを食べました。 / 今朝は、朝ごはんを食べてきました。
- (6) a. ?お土産を買いました。 / お土産を買ってきました。
b. Q: 食事をした後、何をしたの?
A: お土産を買いました。 / *お土産を買ってきました。
- (7) ?ちょっと飲み物を買います。 / ちょっと飲み物を買ってきます。

「ていく」「てくる」を用いてその前後の移動を表現し、話し手の現在の位置との関係を示したほうが、発話の現場との関係をふまえた事態把握となり、日本語として自然。

3. 物理的移動を表す動詞との組み合わせ

補助動詞「てくる」「ていく」は動詞に話し手から見た方向性を付加する。

- (9) ボールが転がってきた / いった。 母がりんごを送ってきた / *いった。

課題2 (9)で「転がる」は「てくる」「ていく」がともに使用できるが、「送る」は「ていく」が使用できない。同じ物理的移動を表す語であるにもかかわらず、なぜこのような

違いがあるのかを考えてみよう。また他の移動を表す動詞についてもそれが該当するかを検証してみよう。

- (10) ?? その人が私に近づいた。 / その人が私に近づいてきた。
(11) ?? 彼が私に書類を送った。 / 彼が私に書類を送ってきた。
(12) a. 業者が (X に) 請求書を送った。 / b. 業者が (X に) 請求書を送ってきた。
/ c. * 業者が (X に) 請求書を送っていった。
a. X= 話し手以外 b. X= 話し手 c. X= 話し手もそれ以外も不可

4. 対象への働きかけを表す動詞

- (13) 隣の人が話しかけてきた。 / 隣の人が話しかけた。(ふたつの意味に解釈可能)
(14) 相手が断ってきた。 / 相手が断った。

「話しかける」「断る」は物理的な主体移動・客体移動ではないが、対象への働きかけが行なわれているため、広い意味での移動と捉えることができる。その移動が話し手へ向けられたものであることを表すのに「てくる」を用いる。

- (15) ?? 鈴木さんが電話で私に知らせた。 / 鈴木さんが電話で私に知らせてきた。
(16) ?? そのうちの一人が私に話しかけた。 / そのうちの一人が私に話しかけてきた。

「きた」を付ければ、話し手に向かっているかは明示できるので、「私に」は必ずしも必要ではない。

- (17) 電話で知らせた。 「知らせた」主体は誰か？
(18) そのうちの一人が話しかけた。 「話しかけた」相手は誰か？

5. 広い意味で移動を含む動詞の分類

- a. 主体位置変化動詞 近づく、向かう、出る、入る、戻る など
- b. 言語附随主体移動動詞 話しかける、語りかける、言いやる など
- c. 身体部位運動動詞 かみつく、ける、なぐる など
- d. 無対対象移動動詞 送る、かける、届ける など
- e. 有対対象移動動詞 預ける、教える、貸す、売る など
- f. 発話内容移動動詞 話す、挨拶する
- g. 態度的働きかけ動詞 招待する、誘う

- (19) 一人の老人が話しかけた。 話し手以外
 (20) 一人の老人が話しかけてくれた。 話し手 恩恵(恩恵の授受については第4課で)
 (21) 一人の老人が話しかけてきた。 話し手 非恩恵(予期しない、意図とは別に)
 (22) 一人の老人に話しかけられた。 話し手 非恩恵(場合によっては被害)

移動を伴う行為を表現しようとする場合、日本語母語話者は、まずその行為が自分に向けられた行為かそうでないかを区別し、さらに自分に向けられた行為であればその恩恵性(「てくれる」)によって区別して表し分ける。

- (23) ?ある男が私に宝のありかを教えた。
 (24) ?ある男が私に宝のありかを教えてきた。 (予期しない、意図とは別に)

(21)(24)の「てくる」の用法の拡張

- (26) 電車のなかで、ふざけている若者に注意したら、突然、キレてきた。

6. 事態の出現と消失

- (27) 子どもの歯が生えた。／子どもの歯が生えてきた。／*子どもの歯が生えていった。
 (28) 再開発のせいで美しい町並みが消えた。 / 再開発のせいで美しい町並みが消えていった。 / *再開発のせいで美しい町並みが消えてきた。
 (29) 今この国が抱えている課題が見えてきた。

7. 変化の進展

- (30) a. バラのつぼみが大きくなってきた。 / 大きくなっていった。
 b. バラのつぼみが大きくなってきましたね。 / ?大きくなっていきましたね。
 (31) 失業率はさらに悪化して()。 / ?失業率はさらに悪化して()。
 ?失業率がさらに悪化して()。 / 失業率がさらに悪化して()。

課題3

- (31) はなぜ「は」か「が」かで、「いく／くる」が言えるかどうか、異なるのかを考えてみよう。

第4課 「あげる」「くれる」「もらう」

1. 「てくれる」と方向性

- (1) 鈴木さんが私の給食を食べました。 / 鈴木さんが私の給食を食べてくれました。
- (2) 今年も桜が咲いたよ。 / 今年も桜が咲いてくれたよ。
- (3) やっと子どもが元気になったよ。 / やっと子どもが元気になってくれたよ。
- (4) 母が小包を送りました。 / 母が小包を送ってくれました。
- (5) 隣の人が話しかけた。 / 隣の人が話しかけてくれた。

(1)~(3)のように、方向性の意味を持たない動詞は「てくれる」によって話し手にとっての恩恵を表現した文とそれを用いずに中立的（ただし、(1)は本当に中立的かどうか検討の余地あり）に表現した文との間で大きな意味内容の違いはない。

(4)(5)のように、第3課で検討した広い意味での移動を含む動詞は、話し手からの遠心的な方向性を表わすことが基本なので、話し手に向かう求心的な動きを表すには「てくる」「てくれる」「られる」を用いなければならない。「てくれる」がない「母が小包を送りました」の小包の送り先や「隣の人が話しかけた」その相手は話し手以外の人物である。すなわち、「てくれる」は恩恵を示すだけでなく、方向性表示の機能を兼務しているといえる。

2. 「てもらう」とヴォイス

- (6) 鈴木さんに考えの誤りを指摘してもらった。 「てもらう」型 (恩恵)
- (7) 鈴木さんに考えの誤りを指摘された。 受身型 (迷惑)
- (8) 鈴木さんに行ってもらいました。 「てもらう」型 (強制性不顕在)
- (9) 鈴木 / ?鈴木さんに行かせました。 使役型 (強制性顕在)
- (10) この仕事は君にやってもらおう。 聞き手への働きかけ

3. 丁寧さ 尊敬表現と授受表現

- (11) #あの荷物、届きましたか？ / あの荷物、届けられましたか（尊敬）？
届けてもらえましたか？ / お届けくださいましたか？ / お届けいただけましたか？
尊敬性のみで授受性がない表現よりも、授受性のみで尊敬性を欠く表現の方が丁寧。
- (12) #あなたが添削した / 添削なさった / 添削してくださった / に添削してもらった / に添削していただいた 原稿、事務に提出しておきました。
「あげる」の不遜さ
- (13) ?安くしてあげますよ。おまけもつけてあげますよ。

ハノイ大学院生による集中講義の感想

今後の研究がだんだん明るくなっています（鈴木先生の授業を受けて）

グエン・ティ・トゥイ・カイ

Nguyen Thi Thuy Cai

大学院試験を受けて合格したことは私にとってとてもいいことでした。

これから研究という分野に入ると明らかに感じました。しかし、「研究」という言葉は私にとって本当に親しくないです。大学生の時研究したことがなかったし、研究を勉強したのに全然方法が分からなくなりました。大学院の試験を受けたとき、研究テーマについて発表するという内容がありましたが、自分が興味している内容がなかなか見つからなかったため、先生たちに「まだ研究したいことを見つけていません」と答えしかありませんでした。そのときから今まで日本語の文法について考えたことが何回もありますので、これからいいチャンスを待とうと思っていました。

大学四年生の時、日本語の文法を学びましたが、内容が詳細ではなかったので、把握したことはあまり多くないです。

鈴木先生の授業に参加したまでは日本語の文型がそんなに具体であることが分かるようになりました。取り上げられた内容は本当に実際のコミュニケーションに活用できると思います。「わたし」や「あなた」や「～ていく、～てくる」など非常に簡単な文型であると思いきや、それらを詳しく分析することができました。日本の文法は広い範囲で、一つの文型又は文法の要素を深く研究すれば論文を書くためにたりるでしょう。鈴木先生の授業は3回のみだったものの、今後の私の研究にとっても役に立つと思います。

一番印象を受けたのは自己紹介の「私」(主観的)です。それも一番恥ずかしいことでした。なぜなら、日本語を勉強してからというもの「はじめまして。私は～です」と言ってしまったためです。今教師であり、自己紹介の授業で「はじめまして。私は～です」を学生たちに教えてしまいました。「やばいなあ。。。」「この大間違いは二度と振り替えまい」と思うようにしました。「みんなの日本語初級I本冊」を見ると「はじめまして。～です」と書いてあり、「なるほど。気が付かなかった」と自分に言いました。教師はいつも正しいということはあるわけにはいけませんが、自己紹介という一番基本的な文型も間違えたのは許せないでしょう。これから簡単な文型でも絶対に間違えないと決意していきます。

また、鈴木先生の質問は答えづらく感じました。一度もそんな詳しい文型を考えたことがなかったからです。先生に説明をくださいましたと、完全に分かることはありませんが、説明し方が分かりやすかったので、納得という感じが十分でした。鈴木先生と私たち学習者間の相互作用は多いと思います。先生の質問は私たちを考えさせたり、答えが間違っただとしても恥ずかしく感じなかったもので、直してくださった後でとてもいい勉強になったと

気がつきました。日本語の教師であれば日本語の文法をせめて 90%把握しなければならないと思います。今日本語の教師である私はこれからもっと日本語の文法を中心し研究する必要があることは否定できません。しかし、研究の方法がはっきり分らないと困るはずで、鈴木先生の授業は研究の方法を導く授業ではないとしても、研究したいことをやっと思つて、本当にありがたいと思います。

ハノイ、2014年12月25日

感想文 ファン・トゥイ・ズオン

先生の講義は短い三日間でしたが多くの意味のある講義でした。最初は「授業、3回だけですか。何を教えてもらうかな」と思いましたが三日間の講習は大学での1年間の講習みたいと感じます。色々なことを教えて頂きました。先生に教えて頂いたことは以前習ったことのないことです。先生の講義を聞いて「へえ、そういうことか」と何回も頭の中に浮きました。4年日本語を習いましたが多くの基本的なことが知らなかったです。日本のドラマを見て、よく「君」とか「お前」が出て普通の会話で使われると思っていましたがそうじゃないことですね。小説やドラマで使用されるということです。

それに、「水を飲みたい」より「水が飲みたい」のほうが自然だということも（恥ずかしいですが）知らなかったです。「水を飲みたい」をよく使ってきました。初級で簡単なことだと思う人が少なくないと思いますがそういうことは誰でも知っているわけではありません。先生の講義は本当に自分の日本語勉強に役に立つと思います。「私は」か「あなたは」の有無による違いは実は考えたことがありません。ただ付けないほうがいと存じます。ただし日本語を学ぶベトナム人は母語の特殊の影響により、「私は」、「あなたは」をよく使ってしまう。ホテルで「あなたは日本人ですか」とお聞かれなりましたこともこの理由でかもしれません。

先生の講義を完全に理解したことは言えません（自分の言葉の問題、おっしゃるスピードなどより）が、分かりやすい講義でした。簡単な例文を出して頂いて優しい目付きでコミュニケーションして頂きました。しかし、緊張した時もありました。なぜかという、「ああ、この質問、どう答えるかな。何も考えられない。」という気持ちを時々持っていました。今回の講習後、もっと学ばなければいけないことが色々あると思います。自分の日本語がより自然になりたいです。

先生、誠にありがとうございました。

感想文 Vu Bich Hanh (ブー・ビック・ハイン)

今年の12月9日～11日(火～木)、ハノイ大学日本語学部の院生として、奈良女子大学の鈴木先生の「日本語学」集中講義に参加できるチャンスをもらいました。

三日間は短い期間ですが、先生が教えてくださった知識は貴重だと思いました。日本語文法は本当に複雑で、難しく感じました。「は」と「が」、「わたし」と「あなた」、「ていきます」と「てきます」は少しだけ違いますから、注意しないで使ったら違う意味が出ると気づきました。講義に先生が教えてくださった日本語は過去大学で教えてくれた日本語や今使っている日本語に比べて、少し違いますから、不安感が出ました。しかし、大学生の時も今も日本語取り扱い能力がまだ浅いと分かりましたから、もっとこんな講義に参加すればするほど、日本語能力が向上していくと思います。

自分の日本語能力がまだ下手ですから、これから日本語についてもっと研究しなければなりません。先生の面白い講義のおかげで、日本語に対する考えが変わりました。

授業が面白くて、色々なことを学びました。

先生、どうもありがとうございました。

せっかく遠い日本から来てくださって、どうも感謝します。

鈴木先生の集中講義についての感想

Nguyen Thi Thuy Linh

グエン・ティ・トゥイー・リン

三日間の授業について個人的な意見を述べさせていただきます。

最初、配っていただいた資料を見て、「日本語らしさ」の文法というテーマって、これはなんなんだろうと思いました。そして、「私」、「あなた」、「は、が」、「くる、いく」、「あげる、もらう」... という表現を読んで、これらは大学の一年生の時、もう勉強したのではないだろうかと思ってしまいました。どうしてせっかく遠い日本から来ていただいた教授にこんなに簡単なことについて教えていただくのだろうかという考えが頭に浮かびました。しかし、自己紹介の時間が過ぎてすぐ、先生に「私」及び「あなた」の上手な使い方について説明していただくと、「そうですか」、「そうなんだ」、「しらなかった」という言葉が口を出しました。本当に面白かったです。何回も勉強したことでしたが、先生のおかげで、授業が進むにつれて新鮮に接触でき、いろいろ勉強になりました。

先生に三日の間に、三回の授業をやっていただき、短いですが有意義な知識がたっぷり得

られました。でも、先生にもっとたくさんのことを教えていただきたかったと思っております。まだ面白くて未知のことがいっぱいあると思いますので、またぜひ先生の授業に参加させていただきたいと思っております。

感想文 アイン

2005年9月から9年間ぐらい日本語を勉強していますが、感想文というものは私にとってまだ難しいものだと思います。「どこから始めるか」「どういうふうに行けばいいのか」「どこまで敬語を使えばいいのか」などの質問を頭の中に浮かべています。まず、「敬語をあまり使わない」と決めます。(鈴木先生はそこまで遠くないのです。)

アルバイトとして2006年12月に初めてある会社の派遣者に日本語を教えるのはじめ、その後すぐ2007年2月にやめました。3か月という短い時期でしたが、そのおかげで自分に向ける職業が分かってきました。いい教師になりたかったから、日本語の勉強に集中できるようにそのアルバイトをやめました。今まで2百人ぐらい日本語を教える、そしてベトナムの有名な大学で日本語の教師として働いてるといっても、本音で言えば、「(わたしは)日本語の教師です」という言葉は時々口に出せません。なぜならば、自分の日本語は未練であることが感じますから。いつもそのことを知っていると聞いていましたが、鈴木先生の授業にまだショックを受けました。自己紹介をする時には、だれが「はじめまして」と言うのか、いつ「私は～」と言うのか、それから「～と申します」より「～です」のほうがいいことなど今まで分からなかったことに私がどこまで恥ずかしいと感じていたのかということは言うまでもないと思います。この間初級日本語を教えていますから、いつも靴の中に「みんなの日本語・初級Ⅰ」のほんさつがあります。「どうして私はを言いますか。日本人だったら、言わない」という先生の言葉を聞くと、すぐ第1課を見ました。「私はという言葉が書いてない！9年間ずっと正しくないことを2百人に教えた！」と分かった瞬間、日本語というものが何も分かっていないと感じました。一方、日本語の難しところに面白さもつくづく実感してきました。先生の3回だけの授業は本当に足りなくて、日本語のらしさをもっと習いたいと思っています。先生の授業はとてもいい勉強になりました。大学院でこれから日本語をどうというふうに調べるのかとの答えが明らかになっています。そして、日本語教師としてやるべきことももっと分かってきました。わたしだけではなく、他の学生も先生の授業のおかげで日本語を研究するということにやるきが出てきたと信じています。また先生にお会いできる機会があったら、自然な日本語で話せるように頑張りたいと思います。ありがとうございます。